

長大レールの輸送並びに連続縦卸作業

広鉄局、施設部保線課

馬 越 道 也

目 次

1. 長大レール輸送の必要性
2. 長大レール輸送方式並びに輸送上の問題点
3. 200Mレール2段積(20本積)輸送試験の概要
4. 長大レールの連続縦卸作業
5. 今後の問題点

要 旨

- ア. 広鉄局では昭和28年以來長大レールを試験的に敷設し、各種の問題を検討している。昭和29年には500Mレールのトロリー輸送を、昭和30年には200Mレール10本/段積の貨車輸送(局内試験)を実施した。
- ロ. 昭和31年1月、国鉄本社試験として200Mレール10本/段積の輸送試験を、昭和32年10月には同じく国鉄本社試験として200Mレール20本2段積の輸送試験を実施して好結果を得た。
- ハ. 昭和33年10月、200Mレール約29KM(145本)を約25日間に輸送し、主として連続縦卸作業により敷設現場に取卸した。
- ニ. 今回の輸送においては連続縦卸器材を改良し、約2000Mのレ

ール（200^mレール10本）を15分間で敷設現場に取卸すことが出来た。

長大レールを山陽本線の如き列車向合の少い幹線において、このように短い時間に取り卸しが出来るようにしたことは作業上の大きな進歩であり、益するところは極めて大なるものがある。

小 今後 400^mレールの2段積26本輸送、300^mレールの3段積36本輸送の方式について検討したい。又連続縦卸作業については長大レールの自動連結器を構想している。